



みんなで子育て

西濃県務所 振興防災課 振興防災係
家庭教育推進専門職 酒井
電話:0584-73-1111 <内線212>
E-mail : sakai-toshinori@pref.gifu.lg.jp

家庭教育についての相談はこちらまで。お待ちしております。



家庭教育応援通信
令和6年度バックナンバー

大野町家庭教育学級合同講演会 7/11 (金)

講演会型
+子育てサロン型

大野町では、毎年、家庭教育学級に関わる保護者や教員対象に、講話による学びの場を作っています。校長会・教頭会から、家庭教育学級担当の校長先生、教頭先生も参加され、講話の内容とつながるお話をされました。

校長先生は、子どもたちがSOSを出せるようにすること、また、SOSを受け止めること（傾聴）が大事だとお話されました。

教頭先生は、わが子とともに取り組んだ夏休みの作品作りについて、わが子が父親との一番の思い出に挙げたことをお話されました。大変だったけれど、後から考えるとやってよかったという体験でした。

「みんなで家庭教育」

環境エネルギー生活部 県民生活課
生涯学習係 塚本 陽治 課長補佐



〈岐阜県の現状〉

- ・小中学生ともに、90%以上が「自分は家族に大切にされている」と回答。約70%が「自分が価値ある人間だと思う」と回答。
- ・小中学生ともに、「不安に感じることはない」の回答は低くなる。
- ・SNSなどのトラブルで「何もしない方がいいと思ってそのまま」「どうしたらいいかわからなかったのでそのまま」の割合が40%を超える。
- ・保護者も子育ての悩みや不安を感じている。

〈家庭教育はこんなことが大切〉

- ・学んだことを少しずつ
- ・コミュニケーションが大切
- ・まずはふれあい、スキンシップ

【困った時には】
誰かに相談する、話を聞いてもらう
↓
分かってもらえる安心できる

〈何を学ぶとよいのか〉

- ・好奇心や興味重視
 - ・自発的に知識・経験を深める
 - ・目標達成が目的ではない
 - ・自己成長や自己理解に向かう
- ※ 学びの「結果」を求めることも大事だが、学びの「プロセス・経験」に目を向けることを重視する。



今年も、講話のあとに交流会がありました。講話を聞くだけでなく、こうした場を設定していただけるだけで、保護者にとって気になっていることを話せるよい機会となります。夏休みは子どもが家にいるため、食事や学習などに関わる時間が増えるので、保護者にとって大変だという話で盛り上がっていました。



講師の資料に掲載されています。子育てが終わっている世代から読んで、この時期が大変だったから読むと、充実していると思えます。

親としての人生を歩んでいるわたしたち
子育てのひとつひとつがはじめてのことばかり

子ども1年過ごした日は、親にとって1歳のバースデー
あせらず、あわてず、あきらめず

子どもとともに、親も2歳3歳と年齢を重ねていこう
子どもが笑うとき、親も一緒に心から笑えばいい
子どもが不安を感じ、迷い、悩むとき、
できれば人生の先輩として子どもの心に灯りをともしてやればい

それでも時には、親としてこれでいいのかと悩む日もある
大丈夫、それもあなたにとって大切な日々
だってわたしたちは子育てをとおして成長し続けていくのだから

困ったときは、一人で悩まずSOS
SOSは、愛情に満ちた学び続ける親の証
ともに悩み、ともに学ぼう
子どもが学び成長するように、
大人も学び成長しよう

家庭教育学級は、そんな学びを応援します
親子で毎年幸せなバースデーを迎えられますように…

神戸町立下宮小学校 家庭教育学級 水害から大切な命を守ろう！

令和7年7月1日(火)
5年生親子：10:30～11:15 音楽室
6年生親子：11:25～12:10 音楽室

外部講師授業を公開する家庭教育学級

下宮小学校では、PTA役員を決めるのではなく、PTA応援団として保護者のボランティアを募集し、集まった42人が分担してPTAに関する会議や活動に参加しています。
昨年度から準備をはじめ、家庭教育学級は、開講式・閉講式での校長講話、「話そう！語ろう！わが家の約束」運動（全校在宅取組）、親子料理教室（保健センターと連携）の他は、授業参観での学びを保護者に関く「講演会型」「体験活動参加型」の家庭教育学級としました。公開するのは、親子で専門的な内容を学ぶことができる外部講師を呼んでの授業が中心です。
昨年度のうちに、外部講師との日時と大まかな内容を打ち合わせているため、令和7年度当初に実施計画を保護者に配付し、参加の心づもりをいただいています。開催月には、各学年の通信で紹介しています。これらは、紙ベースではなく、学校のメール配信サービスで全保護者に伝えています。

外部講師との連携

◇原則、外部講師を呼んでの授業を家庭教育学級としている。

フリー参観を利用した「講演会型」「体験活動参加型」

◇各学年、年間2～7回のフリー参観が計画され、保護者が参加できるようにしている。

「一歩前進」

- 年度当初に家庭教育学級の年間計画が配付されるため、仕事の都合を考え、参加したい学級を選ぶことができます。
- 年間計画と学年通信で家庭教育学級が紹介されるため、案内文を作成する必要がなくなり、保護者の負担を減らすことができました。

5・6年生



台風の高波になることを確かめることを

どれくらいの水位になるとドアが開かなくなるのか、〇×クイズで予想します。



伊勢湾台風の対話型AIの語り部に音声で質問すると、音声と文字で答えてくれます。まるで会話をしているかのように学びました。



保護者は、近くの川が危険水位になることについて話をしました。



参加者の感想

- 私たち大人世代でも、実際に経験していない災害なので、知らないことが多かった。もっとたくさんの方に聞いてほしい内容だった。
- 話を聞くだけでなく、VRやAIを使ってゲーム感覚で学ぶことができたので、今の子どもたちに伝わりやすいと感じた。

まとめ

「自分の命は自分で守る」「大切な人の命を守る」

- 事前の備え**
 - 避難用品の準備。
 - 住んでいる地域の災害リスクに関心！
- 情報収集**
 - 気象庁や国土交通省の防災情報など
 - 情報に敏感に。
 - 普段から情報収集に慣れておこう！
- 早期避難**
 - マイ・タイムラインで事前の行動計画を立てる
 - 万が一に備え、避難場所を決めておく。
 - そして、早め早めの避難行動を！

観劇で観合おう

【スローガン】家族とのふれあいを深め、楽しく健康に過ごそう！

【活動目標】・活動や体験を通して、家族のふれ合いを深める

・家族での語らいが増えるような機会をつくる

日 時	事業の題名及び内容	対 象	講師・実施場所	学習形態
4月19日	家庭教育学級開講式 校長の講話	全保護者	下宮小学校	講演会型
5月14日	曾根城公園へ行く 歩いて公園へ行き仲間つくりをする リコーダーとなかよし	1年生親子	曾根城公園	体験活動参加型
5月26日 5月27日・29日	リコーダーの扱い方について学習する 歯磨き教室 それぞれの学年の口腔内の実態に合わせて、磨き方や噛むことの大切さについて	3年生親子 2, 3, 4, 6年生	下宮小学校	
6月2日	救命救急講習会 人命救助の方法について消防署員からレクチャーを受ける	6年生親子	下宮小学校	体験活動参加型
6月24日	地球温暖化防止講座 原因や影響について学び防止策を考える	4年生親子		
6月26日 6月27日	豆なかな運動 大豆の由来や栄養について知り、栽培を始める 租税教室 税金の使われ方について知る	3年生親子 6年生親子		
7月上旬	朝ごはんの大切さを知ろう 日本ケロッグの出前授業を通して朝食の大切さについて学ぶ	3年生親子	下宮小学校	講演会型 体験活動参加型
7月1日 7月8日	防災について学ぶ 浸水疑似体験を通して、日頃の備えや緊急時の対応について学ぶ 岐阜県統計データ活用講座 講師を招き、統計データの見方や活用の仕方学ぶ	5, 6年生親子 4年生親子		
7月22日	親子料理教室 健康によい献立を親子で学び、調理する	希望する親子	神戸町保健センター	体験活動参加型
9月11日	薬物乱用防止教室 薬物乱用の怖さについて薬剤師や保護司から学ぶ	6年生親子	下宮小学校	講演会型
10月10日～ 10月14日	守ろう！語ろう！わが家の約束 家族との約束をつくり、継続して取り組む	全児童・保護者	各家庭	在宅取組型
11月29日	命の授業	6年生親子		

全保護者に配信した 家庭教育学級実施計画

開講式は、校長先生の講話

各学年の外部講師の授業をフリー参観として保護者に公開しています。

希望参加者親子の料理教室を夏休みにいきます。

全学年対象に「話そう！語ろう！わが家の約束」運動を行います。

親子参観

令和7年6月27日(金)
13:40~14:15
2~6年生親子



外部講師による授業に参加

4月に親子参観を行った1年生以外の学年で開催されました。

担任による授業とは別に専門的な知識を持ってみえる外部講師のお話は、保護者の学びになります。話を聞くだけでなく、授業の中で親子で話し合ったり、親子で協力したりする場面があれば、それが家庭でのコミュニケーションの機会を増やしたり、家庭生活をよりよくしたりすることにつながります。

「一歩前進」

- 平日の開催でしたが、95%の参加率でした。お母さんだけでなく、お父さんや祖父母の参加もありました。
- 兄弟姉妹がいるご家庭では、同一日の開催がありがたいです。
- 市の出前講座を利用しているので、講師料は無料です。

授業参観を利用した「講演会型」

2年生 歯について考えよう(家庭科室)

校医さんと歯科衛生士さんが講師です。2年生は、永久歯が生えてくる頃です。永久歯は一生もの。大切にするには、歯磨きが大切です。

給食後に歯磨きをしたのにも関わらず、歯の染めだしをしてみると、子どもたちの歯は真っ赤。歯科衛生士さんから、磨き残しがないように、磨く順番を決め、歯ブラシの方向を変えながら磨くことを教えてもらいました。まずは、子どもだけで赤く染まったらうまく磨けていないところを磨きます。保護者にも見てもらい、きれいにします。最後にこれからどのようにしていくか相談する時間をとりました。親子で家での歯磨きをしっかりとしようと考えることができました。



タツノオトシゴもいました。

3・4年生 チリメンモンスターを探せ(理科室)

「チリメンモンスター」とは、チリメンジャコの中に混ざっている小さな生き物たちのことです。黒い紙の上にひろげ、「チリメン」を探し、パンフレットを見て、分類してコップに入れていきます。エビやカニ、タコやイカ、魚の稚魚など、多種多様な生き物がいることに、親子ともにびっくりです。



このテントは練習用です。実際のテントはこれより大型になります。

5・6年生 防災について考えよう(多目的ホール)

海津市の危機管理室の方が講師です。お話だけでなく、実際に防災食を試食したり、段ボールベッドやテントを組み立てたりする体験も行います。お湯を注ぐだけでできるわかめご飯は、ふっくらとして意外とおいしいことが分かりました。また、テントに親子で入ってどんなことを思うのか発表しました。「窮屈で暑い。」「狭くて寝ることができない。」など、避難所では不自由なことが想定されることを学びました。

海津市で新しく購入したトイレも紹介していただきました。使った後、自動でビニルを密閉するトイレです。いざという時になってもできるだけ快適に過ごすことができるように、いろいろな工夫がなされています。



「どう、おいしい?」

「結構いける!」

防災食を食べました。

親子スポーツ教室

令和7年6月28日(土) 10:00~11:00
3・4・5歳児親子 関ヶ原小学校 体育館



WIN&WINの家庭教育学級

関ヶ原町では、健康づくりと食育を推進する第3次ヘルスプランせきがはらを策定しています。行政のみならず、保育園・学校・自治会等の団体が互いに連携しながら個人の健康づくりを後押し(推進・支援)することをめざしています。

乳幼児は親子で楽しく体を動かし外遊びをする機会を増やす、保護者(青年期・壮年期)は日常生活の中で1日プラス10分身体を動かす等の実践項目を設定しており、その取り組みを推進するきっかけとして今回、保育園の家庭教育学級(乳幼児とその保護者を対象)と関ヶ原町健康増進センターが共同で親子スポーツ教室を開催しました。

参加者を集めるのは西保育園保護者会が、親子スポーツ教室の講師の派遣はやすらぎ健康増進センターが行います。講師を依頼した「Let'sたらい」の講師からは、子どもの年齢に応じて、楽しくそして親子のコミュニケーションが育まれる運動を教えてくださいました。また、子どもたちが思う存分体を動かすことができるように遊具を体育館中に設置し、親子とも笑顔で楽しく参加できました。

家庭教育学級の内容を考え、講師を依頼するという保護者の負担がなくなり、やすらぎ健康増進センター側も若い子育て世代の保護者に働きかけることができました。

「一歩前進」

- お父さんの参加は、保護者22人中8人でした。親子スポーツにも積極的に参加していただきました。
- 会の最初に、関ヶ原町民がいつまでも健やかに暮らすことのできるための「ヘルスプランせきがはら」の内容を紹介することができました。
- 本日おこなった親子運動の内容をまとめ、未満児の家庭や欠席された方にお届けします。

関ヶ原町やすらぎ健康増進センターと連携した「体験活動参加型」



動物になろう! 足の上ののってペンギン歩き。おさるさん、おんぶからだっこへ。だっこからおんぶへ。



色とりどりのフラフープをくぐったり、跳んだり。



帰りに、保護者会から、お菓子のプレゼントももらえます。



参加者の感想

- 一緒に遊ぶことが減ってきていたが、体がふれあう中、子どもの楽しい姿を見てよかった。
- 親も広い空間で体を動かして、リフレッシュできた。
- 友だちや他の保護者と交流できた。



こんなこともやります!

やすらぎ健康増進センターは、9月に関ヶ原中学校の家庭教育学級とタイアップして、「子ども&大人のための骨太教室」を開きます。

大垣市立安井幼稚園 家庭教育学級
親子七夕飾り制作
防災講座「食料備蓄とトイレ」
 令和7年7月4日(金) 9:00~11:00
 3・4・5歳児親子

季節感あふれる七夕飾り

もうすぐ七夕という時期に合わせての家庭教育学級です。笹竹は、子ども1人に1本ずつあります。あらかじめ幼児だけで作った飾りに加え、今回親子で作った飾りと願い事を書いた短冊を吊るします。そして、お迎えのときに家に持ち帰ります。七夕飾りを囲んで、織姫・彦星の話を伝えたり、願い話を話したりする家族団らんが目に浮かびます。

色とりどりの七夕飾りができました。



一人の百歩よりも、百人の一步が被害を少なくできる

講師は、大垣市「飛び出す市役所」出前講座講師のNPO法人支援ネットワークの皆さんです。
 避難所の食料、水は全員に行き届かない。6.6%の避難所では、3日間仮設トイレがない状態。その3日間を乗り切るには、それぞれの家庭が食料備蓄とトイレの備えをすることが大切であること。加えて、具体的に準備するとよいものも教えていただきました。

「一歩前進」

- 7月7日に向けて七夕飾りを親子で作り、それを家に持ち帰ることで、家族の会話が増えます。
- 「防災を忘れるとそれが災害になる」防災は喫緊の課題です。

保護者が活躍する「体験活動参加型」



年齢に合わせた七夕飾りを調べ、その作り方の掲示をするのも、黒板の前に出て、作り方を説明するのも保護者会の皆さんです。



折った体に糊で貼って、折り紙で織姫と彦星の顔を描いて、折った体に糊で貼って、折り紙で

大垣市の出前講座を利用した「講演会型」

昨年、南海トラフ地震臨時情報が発表されたとき、水を購入しようとしたら、品切れになっていて、備蓄することの大切さを知りました。子どもを守る親として、災害に備える必要があるため、防災講座を大垣市にお願いしました。(保護者会会長)



水の流れないトイレをゴミ袋・凝固剤などで利用する方法を教えてくださいました。

こんなこともやります！

親子で過ごす時間が増える夏休みを利用して、「『夏休み親子制作』～防災グッズを作ってみよう～」を行います。「新聞紙で作るクッション」「新聞紙と段ボール板のスリッパ」「タオルで作るぬいぐるみ」など、避難所で役に立つものを作って、夏休み明けに展示します。



安八町立名森小学校 家庭教育学級
寄せ植え教室・保護者交流会
 令和7年7月9日(水) 10:00~11:10
 1年生 希望保護者 図工室

お話をしながらの体験は楽しい

寄せ植えをする観葉植物は、コーヒーの木、ポトスの他、もう1種。寄せ植えをします。苗の土はほぐして取り除き、少し大きめのガラスのコップ(穴は開いていない)にたわしの素材ともなっているヤシの実のチップを詰めます。ヤシの実は通気性、保水性、排水性にすぐれ、5年以上長持ちします。呼吸をしているので、根の張りもよく、水が汚れることもないので、キッチンなどに置いても気になりません。
 講師に寄せ植えの仕方を教えてもらった後、それぞれのテーブルでわいわいとお話しながら手を動かします。30分ほどで、素敵な作品の出来上がり。

残りの時間は、作品を前に、自由に交流会が始まりました。「このあたりで、遊びにつれて行ける良い所はある？」

「熱中症が心配だけど、どうしてる？」
 話題は、日頃困っていること、気になっていることなど。

同じ地域に住んでいるからこそその情報を得ることができました。



外部講師を利用した「体験活動参加型」+「子育てサロン型」

持続可能な家庭教育学級

◇始まった当初の願いが受け継がれる

名森小学校の家庭教育学級は、1年生保護者が対象になっています。今回のように花や観葉植物の体験教室と交流会が始まったのは、3年前。ちょうど、人とのつながりが弱くなってしまった原因の新型コロナウイルス感染症が収束しかけていた頃です。しかも、名森小学校は、3園以上の幼保園から入学するため、保護者どうしの顔見知りも少ないです。

保護者が一緒に楽しい体験をした後、交流会を開くことで、保護者のつながりを作り、子育ての不安を減らしていきたい。

その願いは、次の家庭教育学級長さんに受け継がれ、体験活動の後、飲み物やお菓子を食べながら、自由にお話をする家庭教育学級が続いています。

参加者の感想

- 寄せ植えが簡単にできて、とても楽しかったです。お世話の仕方も簡単なので大切に育てようと思います。
- 観葉植物の植えつけは難しくなく、持ち帰って嬉しいです。参加できて良かったです。
- 少人数でしたが、今までお話ししたことのない方とも交流できて、楽しく活動できました。
- 時間を忘れ、とてもリフレッシュできました。
- 自分ではなかなかやれない体験ができて、新しい発見もあり、楽しかったです!!
- 他の学年でも、こういった集まって何かするとい活動があると良いなって思います。(子どもは見たことあるけど、お母さんを知らないことが多いので)
- 子どもと寄せ植えをしてみたいなと思いました。体験してみるとハードルが低く、苗を選ぶところから一緒に楽しみたいです。



「一歩前進」

- 「楽しい行事の企画、準備ありがとうございました!」「みんなで同じ事をするのは、とても距離感が縮まって良かったです。」
 体験+交流会という企画に感謝の言葉が伝えられました。
- 爪に土が入ったり、服がよごれたりすることもなく、短時間で完成できたので、交流会の時間をたっぷりとることができました。